

令和2年度

「教育相談コーディネーター養成研修講座」

修了しました！



本講座は、平成16年度から県の施策としてスタートしました。これまでに小・中学校は2,181名、高等学校は1,034名の方が修了しています。また、特別支援学校は、平成26年度から「教育相談コーディネーター養成研修講座3」として206名の方が修了し、今年度7年目を迎えました。

小・中学校

「教育相談コーディネーター養成研修講座1(小・中学校)」

小・中学校は受講者119名で、全6日間の日程を行いました。

チーム支援をテーマに、教育相談コーディネーターの役割や児童・生徒が抱える困りを理解するための講義、ケース会議演習等を通して、学校内外の人的・物的資源をコーディネートできる人材の養成を目的として実施しました。

2020 神奈川県立総合教育センター 教育相談コーディネーター養成研修講座1

協働チームと教育相談コーディネーター1

東京成徳大学 石隈利紀
(学校心理士SV)



今年度は、新型コロナウイルスの感染拡大により、ほとんどの講義が机上研修となりました。講師に直接質疑応答をしたり、協議を行ったりはできませんでしたが、アンケートを介して講師とやり取りを行うなどで、学びを深めました。

ケース会議演習と地区での開催講座は集合研修として実施しました。ケース会議演習では、講義で学んだことを基に、児童・生徒の困りの背景を見立てたり、支援策を考えたりしました。地区での開催講座では、地区の関係機関からの講義を通じ、連携の大切さを学びました。

小・中学校 <内容>

1日目

「学校教育相談の現状と課題」

東京成徳大学教授 石隈利紀

「学校コンサルテーションの基礎と援助シートを活用したケース会議」

東京成徳大学教授 石隈利紀

2日目	「気になる子どもの理解と支援」	所員
	「プロフィールシートとケース会議シート」	所員
	「ファシリテーターの役割と基礎技術」	所員
	「保護者との協働」	帝京平成大学准教授 松浦正一
3日目	「不登校の理解と支援」	明治学院大学教授 小野昌彦
	「ケース会議の運営」	所員
	「ケース会議シートを活用したケース会議①・②」	所員
4日目	「関係機関との連携①～児童相談所～」	児童相談所職員
	「スクールソーシャルワーカーの役割と連携について」	神奈川県教育委員会スクールソーシャルワーカー
	「関係機関との連携②～特別支援学校～」	県立特別支援学校教員
	「ケース会議シートを活用したケース会議③・④」	教育事務所指導主事、県立特別支援学校教員、所員
5日目	「関係機関との連携③～フリースクール等～」	NPO 法人森の仔じゆうがっこう教室長 人見甲子郎
	「インクルーシブな学校づくり～ユニバーサルデザインと合理的配慮～」	所員
	「ケース会議シートを活用したケース会議⑤・⑥・⑦」	所員
6日目	「校内支援体制と教育相談コーディネーターとしての取組」	公立小学校教員、公立中学校教員
	「個別の指導計画と支援シートの作成と活用」	所員
	「研修全体の振り返り」	所員
	「協働チームと教育相談コーディネーター」	東京成徳大学教授 石隈利紀

～「教育相談コーディネーター養成研修講座1(小・中学校)」受講者のアンケートより～

- 教育相談コーディネーターとして、一人で支援をやる必要があるのではないかと不安でしたが、学校そして地域、家庭とチームになって、支援を行うことが重要であると感じました。
- 保護者との関係について「want」と「needs」を誠意をもって聞き、「できること」と「できないこと」を精査していきたい。「できないこと」でも一度は共感的に受け止めることが大切であると思った。
- 不登校の状態が継続していく為の3つの条件があることや、未然に防止していく為の具体的な手立てなどがとても具体的で分かりやすかったです。不登校状態を改善する為には、やはり「チーム支援」になり、個々の児童に合った「オーダーメイド」の形態になる事も大変勉強になりました。
- 問題が大きくなる前に「スクールソーシャルワーカーやチーム、児童相談所に連絡をとっておく」ということをしてもよいと知れたことが、本日の大きな学びの1つでした。
- フリースクールの存在は知っていましたが、具体的な活動や取り組み、子どもたちの様子などを改めて知ることができました。また、子どもたちの新たな学びの場(居場所)として、必要な場所であることも確認できたので、今後はさらに学校とフリースクールが連携していくことが大切だと感じました。
- ケース会議演習を通して、何について話し合っていくか、何についての話し合いかというターゲットを明確にすることの大切さを実感した。

高等学校

「教育相談コーディネーター 養成研修講座2(高等学校)」

高等学校は71名の受講者により、5月22日(金)から研修が始まりました。

生徒が抱える諸問題への適切な支援と校内支援体制の構築を目指し、学校内外の人的・物的資源をコーディネートできる人材の養成を目的として実施しました。



今年度は、コロナ禍ということもあり、ケース会議演習と最終日のみ集合研修、その他の講義は机上研修となりました。

ケース会議演習では、講義で得られた知識を生かし、生徒の困りの背景や支援策について検討しました。また、限られた集合研修の機会での情報交換等を通して、校内支援体制について考えを深めました。7日間の日程を通して、教育相談コーディネーターとして実践力を高めるために、講義・演習に取り組みました。



高等学校 <内容>

1日目	「神奈川の支援教育と教育相談コーディネーターの役割について」 所員 「高校生の心理学的援助について」 筑波大学准教授 飯田順子 「講座に期待すること」 所員
2日目	「思春期の精神症状への理解と対応～子どもの自傷と自殺、その周辺～」 横浜市立大学附属病院児童精神科部長補佐 藤田純一 「ケース会議の進め方～ファシリテーションの視点を踏まえて～」 所員
3日目	「発達障害の理解と支援」 所員 「ケース会議①・②」 所員
4日目	「保護者との協働」 所員 「スクールカウンセラーとの連携」 所員 「ケース会議③・④」 所員

<p>5日目</p>	<p>「不登校の理解と支援」 国立特別支援教育総合研究所上席総括研究員 笹森洋樹</p> <p>「支援をつなぐ～支援シートの活用～」 所員</p> <p>「関係機関との連携」 子ども教育支援課スクールソーシャルワーカースーパーバイザー 笠嶋瑞乃</p> <p>「ケース会議⑤・⑥」 所員</p>
<p>6日目</p>	<p>「個に応じた多様な学習支援について」 横浜国立大学准教授 後藤隆章</p> <p>「個に応じた学習支援プランニング」 所員</p> <p>「教育相談コーディネーターの実際」 高等学校教員</p> <p>「通級指導導入校の実際」 高等学校教員</p>
<p>7日目</p>	<p>「教育的ニーズのある生徒のためのキャリア支援」 中央大学 古賀正義</p> <p>「特別支援学校のセンター的機能の活用」 県立特別支援学校教員</p> <p>「チーム学校として取り組む校内支援体制づくり」 高等学校管理職</p> <p>「教育相談コーディネーターの役割と校内支援体制について」 所員</p>

～「教育相談コーディネーター養成研修講座2(高等学校)」受講者のアンケートより～

- 「困った生徒」は「困っている生徒」というように、日頃生徒と関わる中で「支援」という視点を常に持っていくようにしたい。そういった意識で見ると、その生徒への対応の仕方が全く違ってくと気づいた。
- 話し合いのルールを設定することで、有意義な情報共有をすることができた。実際に学校現場でケース会議をする際は、情報の整理から今後の対応までを明確に整理していきたい。今後ケース会議を開く際にファシリテーターとしての役割をしっかりと理解し、全体を見て良い会議だったと参加者が思えるような会になるように努力していきたい。
- 学校は社会のセーフティネットであるという話がとても印象に残りました。義務教育ではないとしても高校の卒業の資格がこの先の人生の選択肢の幅を広げることにつながるのので、そのための支援(指導も含めて)がとても重要であると思いました。教育相談コーディネーターはその責任感を持つ必要があると思いました。
- この研修を通して、自校のよいところ、課題に気づくことができたのは、他校の先生たちとの協議があったからだと思う。
- 校内支援体制を確立していくためには、まず、教員間のコミュニケーションが円滑に行われている必要があると感じました。生徒の特性や困難を認識すると同時に、教員間での情報共有も密に行って行きたいです。

特別支援学校 「教育相談コーディネーター 養成研修講座3(特別支援学校)」

特別支援学校は、6月9日(火)より、30名の受講者で、講座をスタートしました。



この講座では、アセスメント、コンサルテーション、カウンセリングを3つの柱としています。困っている子どもについて、根拠をもとにアセスメントし支援を組み立てるために、さまざまな視点から講義・演習を行いました。今年度は、コロナ禍ということもあり、初日は机上研修となりました。2日目以降は集合研修で行いました。

特別支援学校 <内容>	
1日目	<p>「特別支援学校のセンター的機能に期待されること」 所員</p> <p>「学校心理学の基礎」 帝京大学教授 田村順一</p> <p>「子どもの支援を4つの援助領域から考える～学校心理学の視点から～」 帝京大学教授 田村順一</p>
2日目	<p>「子どもの心理社会的発達」 所員</p> <p>「保護者との協働～カウンセリングの視点から～」 所員</p>
3日目	<p>「アセスメント(1)～行動観察によるアセスメント～」 所員</p> <p>「ケース会議をデザインする～ファシリテーションの基礎～」 所員</p> <p>「中学校・高等学校での巡回相談におけるケース会議の実際」 県立特別支援学校教員</p>
4日目	<p>「アセスメント(2)～自閉スペクトラム症の理解～」 所員</p> <p>「事例検討①・②」 所員</p>

5日目	「学校コンサルテーション」	東海大学教授 芳川 玲子
	「事例検討③・④」	所員
6日目	「事例検討⑤・⑥」	所員
	「関係機関との連携」	所員
	「インクルーシブな学校づくり～特別支援学校に求められること」	所員

～「教育相談コーディネーター養成研修講座3(特別支援学校)」受講者のアンケートより～

- 講義・演習・協議を通して、コーディネーターの役割やスキルについて学ぶことができた。今年、コロナ禍で制限もある中ではあったが、とても有意義な研修となった。
- 事例検討では、実践的にアセスメントを行う練習ができ、ポイントや流れを理解することができた。ケースは同じものは無く、その都度、他者・機関と連携しながら、事実から広い視野で、都度アセスメントしていく大切さを学びました。
- センター的機能の話が最後にあったのはとても良かった。様々な工夫された取り組みが知れて、うちでもやってみたいという内容がたくさんあった。自立とは依存しないことではなく、依存先をふやすこと。それをコーディネートする役割ということ意識して、これから業務に励みたい。
- 講義で学んだことを事例検討で実際に活かしながら学べたこと、また、改めて知識を学びなおしたことによって、自分自身の中で、大切にしたいと思えることに気づけた研修でした。日々の実践の中で迷うことも、この研修を通して改善するためのヒントになることもありました。自分のなかでもスモールステップで実践を積み重ね「子どもにとっての幸せ」に向けて尽力していきたいです。
- 根拠ある実現可能な助言をし、支援策を関係機関と一緒に考えること。学び続ける姿勢でいること。特にこの研修で様々な障害特性及びその支援についての知識・技能が自分には足りないと感じたので、時間を有効的に使って勉強しなければと思いました。6日間、本当にありがとうございました。